

【別添2】（様式例2）

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜城北高等学校 学校番号 8

I 自己評価

1 学校教育目標	確かな学力、豊かな人間性、健やかな心身を育み、一人一人の個性を伸ばし、社会の変化に柔軟に対応し、社会に貢献できる人材を育成します。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP） ・主体的に多様な人々と協働して学び、生きて働く知識・技能を身に付け、課題を発見し解決に取り組む生徒 ・心身の鍛磨を図り、個性を尊重し、奉仕の精神を養い、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・社会の変化に柔軟に対応し、地域や社会の課題に取り組む、地域社会の発展に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP） ・生徒一人一人がキャリアデザインを具体的に描き、自己実現が図れるよう、各学科の特色ある教育活動を推進し、専門性を深化させるとともに、キャリア教育を推進 ・「主体的・対話的で深い学び」を推進し、知識・技能を習得させ、他者と協働しながら課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等や主体的に学習に取り組む態度を育成 ・基本的生活習慣の確立と自他の生命を尊重する態度を育て、生徒一人一人の個性を伸ばし、深い学びを実現するための社会に開かれた教育課程の編成と個に応じた指導の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP） ・基本的生活習慣が身に付いており、向学心を持ち、学校行事、生徒会活動、部活動などの活動に積極的に参加し、多様な人と協働して学ぶことができる生徒 ・進路実現に向かって継続的に努力し、多様な学びや資格・検定、コンクールに主体的に取り組む、自らの可能性を拓く意欲のある生徒 ・部活動でスポーツ活動または文化活動で優れた能力を有し、入学後も継続して活動する意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇図書部		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「図書室に興味をもてる楽しい本をそろえており、生徒はよく利用している。」という項目について、生徒の肯定的評価は71.5%となり昨年度より8.1ポイント上がっている。保護者については、肯定的評価は45.1%となり、昨年度より3.6ポイント上がっている。 ・多くの生徒に図書室を身近に感じてもらい、気軽に足を運べる場所にしたい。利用する生徒の幅を広げるような働きかけや雰囲気作り、映画や世間で話題になった本について、ポップを使ってアピールするなど、本を手に取りたくなるような取り組みを継続していきたい。家庭でも読書をし、家族と読書について情報共有できるのが理想である。		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒の健全な教養と読書習慣の育成を図る。読書を楽しみ、豊かな人間性をもつ生徒を育てる。 ◇各教科、系列、コースの学習内容に関連した図書の収集・整理・保存・提供をし、調べ学習の充実や学習の広がりを図る。必要に応じてタブレットの活用と組合せ、学習の質の向上を目指す。 ◇図書委員の主体的活動を促し、本の紹介など全校生徒に向けての働きかけを活発化する。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・各教科（特に国語、家庭、芸術など）、学年会との連携 ・分掌（特に進路指導など）との連携。受験対策の本を紹介する小冊子を各教室に置く		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 図書委員による図書館便りの作成 (2) 効果的なディスプレイによる新着図書の紹介 (3) 進路実現に役立つ本の紹介 (4) 紫翠祭での展示発表（ポップ・本に関するグッズ制作）	(1) 貸出冊数・アンケートの結果 (2) 授業や昼休み、放課後の図書室利用状況 (3) 生徒の意見や要望の数・本の貸出冊数 (4) 図書委員の活動状況		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
・月に1回、図書館便りを発行し、教員と委員のお薦め本を紹介した。放送でも新着案内や利用の呼びかけを行った。 ・図書委員が作成したポップやディスプレイを 図書室に飾り、親しみやすい雰囲気づくりをした。 ・コロナウイルス感染対策をし、効率よく委員会活動を行った。	① 貸出冊数は増えているか ② 朝や昼休み、放課後に訪れる生徒は増えているか。 ③ 図書委員は主体的に工夫して活動しているか。	A B C D A B C D A B C D	
12 成果 ・ 〇貸出冊数は減少したが、休み時間、放課後などに、生徒同士で本について情報交換をする、生徒が司書や教員に本のリクエストをする、本についての助言を求めるなど、前向きな生徒が増加した。「進路実現に役立つ本の紹介」のパンフレットを3年生の教室に掲示すると、掲載された本を借りる姿が見られた。 ・ 〇放課後や紫翠祭の展示準備の際に、図書委員が仲間と楽しみながらディスプレイを作成し、完成度の高いものを仕上げた。委員の準備する姿を見て、委員以外の生徒も自ら手伝う姿が見られた。 ▲図書室を全く訪れない生徒がいる。まず、図書室に訪れる生徒の要望を聞くなど、意思疎通を大切にしリクエストに応じた本を購入し、生徒に知らせることで、より多くの生徒に訪れてもらうよう努力する。	総 合 評 価 A B C D		
13 来年度に向けての改善方策案 蔵書の充実と利用度について、生徒から75%以上、保護から60%以上の肯定的評価を得ることを目標とし、以下の点に取り組みたい (1) 各教科・学年会などと連携し、授業での利用をきっかけとして図書室へ足を運びやすい環境を作る。また、進路関連の本を充実させ、全学年が親しむことができるように、通信や放送のコメントを工夫し、利用を促していく。 (2) クラス単位の読書に関するロングホームルーム・授業などで、生徒同士が本を紹介し合うような場面を設定して、情報共有の中から読書に関する意識を高めていく。			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和 年 月 日

【意見・要望・評価等】
